化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会（第25期・第7回）
化学委員会 IUCr 分科会（第25期・第7回）合同分科会議事要旨

日時：令和4年12月27日（火） 10時00分～12時00分

場所：遠隔会議（zoom）

出席者：秋山修志†、阿久津典子†*、井上 豪†*、奥部真樹†*、片岡幹雄†*、上村みどり†*、栗原和枝†*、
黒田玲子†*、小島優子†、小林昭子†、佐々木 園†、菅原 正†、菅原洋子†*、高田昌樹†*、
高原淳†*、富安亮子†*、難波啓一†*、西野吉則†*、野田岳志†、森吉千佳子†*、山下敦子†

欠席者：片岡幹雄†*、高原 淳†*、難波啓一†*

（†結晶学分科会委員、*IUCr 分科会委員）

<配布資料>

資料1：日本学術会議の在り方についての方針_内閣府_12月6日_siry0186-1-7

資料2：日本学術会議の在り方について（具体化検討案）内閣府_12月21日_siry0186-2-1

資料3：学術会議のあり方についての方針への再考を求めます 20221221_声明_kohyo-25-s186

資料4：第26期日本学術会議会員候補者の選考方針の改正について（案）_提案者会長_siry0186-1-6

議事

1. 新会員について

菅原洋子委員長が定年により日本学術会議会員から連携会員へ、佐々木園委員（京都工芸繊維大学教授）が連携会員から会員になったことが報告された。

2. IUCr 分科会について

(1) IUCr2023（開催地：メルボルン、開催期間：2023年8月22-29日）にかかわり、高田 IUCr 分科会委員長より以下の報告があった。

1) IUCr 次期執行部、科学分科会委員推薦（2022年6月30日〆切）

- ・ 総会において、次期執行部（2023年8月より3年間）の選出が行われ、理事6名中半数が改選される。高田委員（現 IUCr 理事）が任期満了のため、前回分科会で承認に基づき日本より次期理事候補を推薦した。
- ・ 21 科学分科会に対し、22名の委員候補（内女性3名）を推薦した（2022年6月29日確認依頼済）。

2) 賞の推薦（2022年8月31日〆切）

- ・ Ewald Prize および Bragg Prize に日本より候補者の推薦を行った。

3) 代表派遣（2023年1月6日〆切）

- ・ IUCr 総会において、日本は4票の代表権を持つことから、2023年度の日本学術会議代表派遣に4名を申請することを予定。

4) その他

- ・ IUCr2023 の PL として、Prof. Hideo Hosono (Japan)、Prof. Junko Yano (USA)、Prof Mark Spackman (Australia)が決定した。

- ・ IUCr2023 講演申し込みが切が 2023 年 2 月 21 日まで延長となった。
- ・ IUCr2023 早期参加登録が 2023 年 3 月 31 日まで延長となった。

3. 結晶学分科会・IUCr 分科会共通について

(1) 連絡会議の活動報告

- 1) 持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD2022）に関する連絡会議の活動について上村連絡会議委員より以下の報告があった。
 - ・ 2022 年 7 月 29 日学術フォーラム「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」、2022 年 10 月 21 日公開シンポジウム「持続可能な未来をつくる意思決定の仕組み」（サイエンスアゴラ 2022 オンライン）、2022 年 11 月 5 日公開シンポジウム「私たちの地球はどんな惑星かー科学を混ぜて地球を探る」（サイエンスアゴラ出典企画）が開催された。
- 2) カーボンニュートラルに関する連絡会議の活動について、小島連絡会議委員より前回の分科会以降の活動として以下が報告された。
 - ・ 2022 年 6 月 21 日に第二回連絡会議が開催され、省庁からのヒアリング等がなされた。
 - ・ 2022 年 5 月 31 日に G サイエンス学術会議 2022 が開催され、世界的な重要課題についての共同声明が取りまとめられ、その 1 つとして「脱炭素化：国際的行動の緊急的必要性」が取り上げられた。
 - ・ 今後は、HP の充実や活用、第二回学術フォーラム企画、参加委員会・分科会等の連携活動の促進、意思の表出などを検討中である。
- 3) パンデミックと社会に関する連絡会議について、菅原委員長より以下の報告がなされた
 - ・ 前回の分科会での議論を受けて、井上委員より WG への積極的参加の可能性について問い合わせがなされた。これに対して、今後、参加分科会の意見を取りまとめるタイミングがくるとの回答があった。

(2) IYBSSD2022 に関する分科会としての活動について

- 1) 菅原委員長より以下の報告があった。
 - ・ 公開シンポジウム「SDGs と結晶学」が、日本結晶学会・日本学術会議結晶学分科会・同 IUCr 分科会主催として、2022 年 11 月 27 日に関西学院大学にて対面開催され、参加者数は、主催者側 8 名（含講演者）、一般（含日本結晶学会会員）120 名であった。
- 2) 菅原委員長より次回公開 Web シンポジウム開催計画について、これまでの作業報告がなされた。
 - ・ 2022 年 11 月 6 日に分科会委員へメールで分科会の開催計画についてのアンケートを実施し、これを基に 2022 年 12 月 24 日に世話人が web 会議を開催して協議し、シンポジウム原案を作成した。
- 3) シンポジウム原案が菅原委員長より提案され、趣旨、開催日、タイトル、プログラム、パネルディスカッションの進め方等について意見交換の後、シンポジウム（案）が承認された。

(3) 日本学術会議の状況について

- 1) 第 186 回日本学術会議総会について、佐々木園委員より報告があった。総会は 2022 年 12 月 8 日と 12 月 21 日に行われ、内閣府「学術会議の在り方についての方針」（配布資料 1、配布資料 2）について内閣府・笹川総合政策推進室長による説明があり、質疑応答がなされるとともに、これへの対応が議論された。政府方針に対し、声明－内閣府「学術会議のあり方についての方針」に

ついて再考を求めます（配布資料3）を出すことが決定された。

- 2) 第26期会員・連携会員の選出については、内閣府より、会員選考プロセスにかかわる第三者委員会の設置を含めた日本学術会議法の改定案の次期通常国会への提出が予定されており、法案が可決された場合は現行法での会員選考作業（配布資料4）は中断され、新法での会員が決まるまでの期間は現会員の任期が延長される可能性がある。

4. その他

- (1) 化学委員会の活動について菅原委員長により以下が報告された。

- 1) 博士人材問題について、化学委員会・化学企画分科会・科学技術立国を支える化学系博士人材の育成支援小委員会で議論が進められ、「化学と工業」の特集、「見解」表出の準備等が進められている。
- 2) 未来の学術振興構想にかかわり、化学委員会から中長期戦略として「元素戦略2.0」が提案され、2022年12月22日の化学委員会合同会議において、茶谷化学委員長および京大・依光英樹氏の講演が行われた。

これらを受けて、2022年12月22日に開催された化学委員会合同会議にて東北大・西村君平氏の講演で紹介された博士人材問題にかかわるアンケート結果などに基づく意見交換が行なわれた。

- (2) 菅原委員長により今後の予定の確認・説明がなされた。

- 1) 分科会としての公開 Web シンポジウムの企画を進める（開催日第一候補 2023年5月27日（土））
- 2) 次回の合同分科会を上記の公開 Web シンポジウムの前（または後）に開催する。
- 3) 次回の分子研所長招聘会議は2023年6月中旬に開催予定。